

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジンシンワガクエン 学校法人親和学園							
フリガナ大学の名称		コウベシンワダイガク 神戸親和大学							
大学本部の位置		神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1							
大学の目的		本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神に基づき、社会の発展方向を広く視野におき、学芸に関する多様な教育研究を通して豊かな教養を培い、専攻に係る学識を深めることによって、総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる人間を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		心理学部 幅広い心理学の知見を基盤としながら、多様な価値観を持つ人々と共生できる柔軟な考え方や広い視野を持つ人材、様々な社会の文化や個人が抱える課題の解決に貢献できる人材を育成する。 心理学科 心理学的な視点や手法を用いて様々な組織や企業の活動をサポートし発展に貢献できる人材、又は心理臨床の知識と技術をもとに、自己及び人々の心身の健康と共感的で円滑な人間関係の構築に貢献できる人材を育成する。また、現代社会において重要性を増すセルフケアの知識と実践力を教育の中核に据え、学生自身が心身の健康を主体的に維持・促進できる人材を育成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	心理学部 [Faculty of Psychology] 心理学科 [Department of Psychology] 計	4年	55人	-年次人	220人	学士 (心理学) 【Bachelor of Psychology】	文学関係	第1年次 令和9年4月 第1年次	兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		文学部 国際文化学科〔定員増〕(2) (令和9年4月) 教育学部 教育学科〔3年次編入学定員〕(△20) (令和9年4月) スポーツ教育学科〔定員増〕(13) 文学部 心理学科(廃止)(△60) ※令和9年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	心理学部心理学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		72科目	45科目	24科目	141科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新設	心理学部心理学科	7人 (7)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	23人 (23)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)				
分	計	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	23 (23)	

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 8人

既	文学部国際文化学科		5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	14 (14)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 8人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)					
	教育学部教育学科		34 (34)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	32 (32)		大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	34 (34)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	40 (40)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計（a～b）	34 (34)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	40 (40)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	34 (34)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	40 (40)						
教育学部スポーツ教育学科		9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	21 (21)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7人		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)						
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)						
分	計		47 (47)	10 (10)	2 (2)	1 (1)	60 (60)	0 (0)		67 (67)	
	合 計		54 (54)	13 (13)	2 (2)	1 (1)	70 (70)	0 (0)	90 (90)		
職 種			専 属			そ の 他		計			
事 務 職 員			25人 (25)			31人 (31)		56人 (56)			
技 術 職 員			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員			1 (1)			0 (0)		1 (1)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計			26 (26)			31 (31)		57 (57)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		23,774 m ²		0 m ²		0 m ²		23,774 m ²		
	そ の 他		9,523 m ²		0 m ²		0 m ²		9,523 m ²		
	合 計		33,297 m ²		0 m ²		0 m ²		33,297 m ²		

校 舎		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
		20,441 m ² (20,441 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		20,441 m ² (20,441 m ²)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室		65 室		教 員 研 究 室		10 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		機械・器具 点	標本 点	
	心理学部心理学科		254,222 [45,626] (254,222 [45,626])	0 [0] (0 [0])		6,722 [5,519] (6,722 [5,519])		5,234 [5,167] (5,234 [5,167])		1,433 (1,433)	0 (0)	
	計		254,222 [45,626] (254,222 [45,626])	0 [0] (0 [0])		6,722 [5,519] (6,722 [5,519])		5,234 [5,167] (5,234 [5,167])		1,433 (1,433)	0 (0)	
スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂			厚生補導施設				
		5,026 m ²			934 m ²			3,939 m ²				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—	— 千円			
		共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	—	— 千円			
		図 書 購 入 費	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	—	— 千円			
	設 備 購 入 費	13,252千円	13,252千円	13,252千円	13,252千円	13,252千円	—	— 千円				
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			1,410千円	1,180千円	1,180千円	1,180千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料、寄附金収入を財源として経費を支弁する									
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		神戸親和大学									
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地		
	文学部		年	人	年次	人		倍				
	国際文化学科		4	48	—	216	学士（文化学）	0.99	平成15年度	兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1		
	心理学科		4	60	—	240	学士（心理学）	0.96	令和3年度			
	教育学部				3年次							
	教育学科		4	180	20	750	学士（教育学）	1.13	平成17年度			
	スポーツ教育学科		4	87	—	314	学士（スポーツ教育学）	1.77	平成20年度			
	通信教育課程				3年次							
	教育学科		4	200	400	1,600	学士（教育学）	0.05	平成18年度			
	福祉臨床学科		4	—	—	—	学士（社会福祉学）	—	平成18年度			
	文学研究科 修士課程											
	心理臨床学専攻		2	15	—	30	修士（心理学）	0.46	平成14年度			
教育学専攻		2	20	—	40	修士（教育学）	0.47	平成14年度				
附属施設の概要			該当なし									

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「ス

ボート施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。

6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人親和学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神戸親和大学				神戸親和大学				
文学部				文学部				
国際文化学科	48	-	192	国際文化学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	定員変更(2)
心理学科	60	-	240		<u>0</u>	-	<u>0</u>	令和9年度4月学生募集停止 学部の設置(認可又は届出)
				<u>心理学部</u>				
				心理学科	<u>55</u>	-	<u>220</u>	
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
教育学科	180	20	760	教育学科	180	<u>0</u>	<u>720</u>	編入学定員変更(3年次20→0)
スポーツ教育学科	87	-	348	スポーツ教育学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	定員変更(13)
計	375	20	1540	計	<u>385</u>		1540	
(通信教育課程)				(通信教育課程)				
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
教育学科	200	400	1600	教育学科	200	400	1600	
福祉臨床学科	-	-	-	福祉臨床学科	-	-	-	平成31年度から 学生募集停止
計	200	400	1600	計	200	400	1600	
神戸親和大学大学院				神戸親和大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
心理臨床学専攻(M)	15	-	30	心理臨床学専攻(M)	15	-	30	
教育学専攻(M)	20	-	40	教育学専攻(M)	20	-	40	
				<u>教育臨床実践高度化専攻(D)</u>	<u>3</u>		<u>9</u>	専攻の設置(認可申請)
計	35	-	70	計	<u>38</u>	-	<u>79</u>	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 学 部 等 の 学 年 進 行 新 終 了 時 に お け る 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	基幹教員	
	学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は 称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
文学部心理学科 (廃止)	学士(心理学)	文学	心理学部心理学科	10	7	心理学部心理 学科	学士(心理 学)	文学	文学部心理学科	10	7
			計						計		
文学部国際文化学科	学士(文化学)	文学	文学部国際文化学科	8	5	文学部国際文化 学科	学士(文化 学)	文学	文学部国際文化学科	8	5
			計						計		
			計						計		
			計								

基礎となる学部等の改編状況

開設又は改編時期	改編内容等	学位又は学科の分野	手続きの区分
昭和41年4月	文学部国文学科 設置	文学	設置認可(学科)
	文学部英文学科 設置	文学	設置認可(学科)
平成10年4月	文学部人間科学科 設置	文学、教育学・保育学 社会学・社会福祉学	設置認可(学科)
平成15年4月	文学部人間科学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成15年4月	文学部心理臨床学科 設置	文学	設置認可(学科)
平成17年4月	文学部心理臨床学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
平成17年4月	発達教育学部心理臨床学科 設置	文学	設置届出(学部)
平成20年4月	発達教育学部心理臨床学科→心理学科	文学	名称変更(学科)
令和3年4月	文学部心理学科 設置	文学	設置届出(学科)
令和3年4月	発達教育学部心理学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
令和9年4月	心理学部心理学科 設置	文学	届出
令和9年4月	文学部心理学科の学生募集停止	—	学生募集停止(学科)

-基本計画書-7-

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
共通教育科目	キャリアデザイン	資格認定科目A	1後		2				○	1						オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） メディア
		資格認定科目B	1後		2				○	1						
		資格認定科目C	1後		2				○	1						
		インターンシップA	2通		1				○	1						
		インターンシップB	2通		1				○	1						
		小計（11科目）	—	—	15		—			2					1	
	日本語コミュニケーション（留学生）	日本語（基礎）Ⅰ	1前		1			○			1					
		日本語（基礎）Ⅱ	1前		1			○			1					
		日本語（基礎）Ⅲ	1後		1			○							1	
		日本語（応用）Ⅰ	1後		1			○			1					
		日本語（応用）Ⅱ	1後		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズⅠ	1前		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズⅡ	1前		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズⅢ	1後		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズⅣ	1後		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズⅤ	2前		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズⅥ	2前		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズⅦ	2後		2			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズⅧ	2後		2			○							1	
		ビジネス日本語	3前		2			○							1	
		日本語ライティング	4前		2			○							1	
		総合日本語Ⅰ	1前		1			○							1	
		総合日本語Ⅱ	1後		1			○							1	
		総合日本語Ⅲ	1後		1			○							1	
		総合日本語Ⅳ	1後		1			○							1	
		小計（19科目）	—	—	23		—				1		1		4	
	地域共創科目	地域共創Ⅰ	1後	○	4				○	5	1	1				
		地域共創Ⅱ	2前	○	4				○	1						
		地域共創Ⅲ	2後	○	4				○		1					
		地域共創Ⅳ	3前	○	4				○		1					
		小計（4科目）	—	—	16		—			5	3	1				
専門教育科目	基本科目	臨床心理学概論	1前	○	2			○			1					1 2 1
		発達心理学概論	1前	○	2			○				1				
		感情・人格心理学	1後	○	2			○		1						
		心理学実験・実習A	1前	○	1				○		2					
		心理学実験・実習B	1後	○	1				○		1					
		学習・言語心理学	2後	○	2			○		1						
		社会・集団・家族心理学	1後	○	2			○		1						
		心理学研究法	2後	○	2			○							1	
		心理学的支援法	2後	○	2			○		1						
		小計（9科目）	—	—	16		—			4	3				3	
	演習科目	心理学専門演習Ⅰ	3前	○	2				○	5	3					
		心理学専門演習Ⅱ	3後	○	2				○	5	3					
		心理学専門演習Ⅲ	4前	○	2				○	7	2					
		心理学専門演習Ⅳ	4後	○	2				○	7	2					
		卒業研究	4通	○	4				○	7	2					
		小計（5科目）	—	—	12		—			7	3					
	基幹科目	経営学	1前	○		2		○							1	
		企業分析論	2前	○		2		○							1	
		アントレプレナーシップ論	2休	○		2		○							1	
		広告心理学	3前	○		2		○							1	
		消費者心理学	3後	○		2		○							1	
		産業・組織心理学	3前	○		2		○		1						
		ビジネス心理学	1前	○		2		○							2	
		経済心理学	2前	○		2		○		1						

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員以外 の教員		
専門 教育科目	基 幹 科 目	マーケティング論	2後	○		2		○								1	メディア	
		社会心理学実験・実習	2後	○		1					1							
		知覚・認知心理学	2前	○		2		○				1						
		色彩心理学	2前	○		2		○				1						
		色彩学	2後	○		2		○								1		
		小計（13科目）	—	—		25		—		1	1					6		
	公 認 心 理 師 ・ 臨 床 心 理 士 コ ー ス	発達臨床心理学	2後	○		2		○									1	オムニバス・共 同（一部） メディア
		カウンセリング	3前	○		2		○				1						
		精神疾患とその治療	3後	○		2		○				1						
		心理的アセスメント	3前	○		1				○							1	
		青年心理学	2前	○		2		○									1	
		福祉心理学	2前	○		2		○									1	
		障害者・障害児心理学	3後	○		2		○									1	
		司法・犯罪心理学	3前	○		2		○									1	
		関係行政論	3後	○		2		○					1					
		公認心理師の職責	3前	○		2		○					1					
		心理演習Ⅰ	3前	○		2			○			1						
		心理演習Ⅱ	3後	○		2			○			1						
		心理実習	3通	○		2				○		7						
		神経・生心理学	3後	○		2		○									1	
		健康・医療心理学	2前	○		2		○									1	
		人体の構造と機能及び疾病	3後	○		2		○									1	
		心理専門職演習Ⅰ	1後	○		2		○				1						
		心理専門職演習Ⅱ	2通	○		2		○				1						
		心理専門職演習Ⅲ	3通	○		2		○				1	1					
		心理専門職演習Ⅳ	4通	○		2		○				1						
		小計（20科目）	—	—		39		—		7	2					7		
	発 展 科 目	粧いの心理学	1前			2		○									1	メディア オムニバス・共 同（一部）
		子どもから見た世界	1後			2		○									1	
		発達心理学	2後			2		○									1	
		教育・学校心理学	3前			2		○				1						
		自然環境と心理	1前			2		○									1	
		スポーツ心理学	2前・後			2		○				2						
		情報と統計	1後			2		○									1	
		心理学統計法	2後			2		○					1					
		多変量解析	4前			2		○				1						
		心理学実験	3後			1				○			1					
		表現と自己理解の心理学	1後			1		○				1						
		こころと身体つながり	1後			1		○				1						
		音楽と心理学	2前			1		○				1						
		コミュニケーションの心理学	2前			1		○				1						
		自分を支える心理学	2後			1		○				1						
		動物と関わる人の心理学	2後			1		○				1						
		海外心理学研修	1休			2				○		1						
		小計（17科目）	—	—		27		—		—	8	1				5		
合計（141科目）			—	—	54	187		—		25	6	3	1		46			
学位又は称号		学士（心理学）			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
必修科目54単位、共通教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の 選択科目から42単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位未満（年間））									1 学年の学期区分				2期または4期					
									1 学期の授業期間				15週または8週					
									1 時限の授業の標準時間				90分					

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等

- に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - （1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - （2）「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - （3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(文学部心理学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員以外 の教員		
ベーシック・スキル	基礎演習Ⅰ	1前	○	1					○		2	1					メディア メディア メディア	
	基礎演習Ⅱ	1後	○	1					○		1	2						
	健康行動学	1後	○	2				○		1								
	ICT基礎Ⅰ	1前	○	1					○		1					1		
	ICT基礎Ⅱ	1後	○	1					○		1							
	総合英語Ⅰ	1前	○	1					○			1						
	総合英語Ⅱ	1後	○	1					○			1						
	ワーク&ライフデザインⅠ	1前	○	1					○							5		
	ワーク&ライフデザインⅡ	2後	○	1					○							5		
小計(9科目)		—	—	10				—		4	3					7		
リベラル アーツ	Interactive EnglishⅠ	1前			1				○								2	メディア メディア

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 (助手を除く)	
共通教育科目	キャリアデザイン	資格認定科目B	1後		2				○	1						
		資格認定科目C	1後		2				○	1						
		インターンシップA	2通		1				○	1						
		インターンシップB	2通		1				○	1						
		小計 (11科目)	—	—	15			—		2					1	
	日本語コミュニケーション (留学生)	日本語 (基礎) I	1前		1			○			1					
		日本語 (基礎) II	1前		1			○			1					
		日本語 (基礎) III	1後		1			○							1	
		日本語 (応用) I	1後		1			○			1					
		日本語 (応用) II	1後		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズ I □	1前		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズ II	1前		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズ III	1後		1			○							1	
		アカデミック・ジャパニーズ IV	1後		1			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズ V	2前		1			○					1		1	
		アカデミック・ジャパニーズ VI	2前		1			○					1		1	
		アカデミック・ジャパニーズ VII	2後		2			○					1			
		アカデミック・ジャパニーズ VIII	2後		2			○							1	
		ビジネス日本語	3前		2			○							1	
		日本語ライティング	4前		2			○							1	
		総合日本語 I	1前		1			○							1	
		総合日本語 II	1後		1			○							1	
		総合日本語 III	1後		1			○							1	
		総合日本語 IV	1後		1			○							1	
		小計 (19科目)	—	—	23			—			1		1		4	
地域共創科目	地域共創 I	1後	○	4					○	5	1	1				オムニバス・共同 (一部) オムニバス・共同 (一部) メディア
	地域共創 II	2前	○	4					○	1						
	地域共創 III	2後	○	4					○		1					
	地域共創 IV	3前	○	4					○		1					
	小計 (4科目)	—	—	16				—		5	3	1				
専門教育科目	基本科目	臨床心理学概論	1前	○	2			○			1					
		発達心理学概論	1前	○	2			○			1					
		感情・人格心理学	1後	○	2			○								
		心理学実験・実習A	1前	○	1				○		2				1	
		心理学実験・実習B	1後	○	1				○		1				2	
		学習・言語心理学	2後	○	2			○			1					
		社会・集団・家族心理学	1後	○	2			○			1					
		心理学研究法	2後	○	2			○							1	
		心理学の支援法	2後	○	2			○			1					
		小計 (9科目)	—	—	16			—		4	3				3	
	演習科目	心理学専門演習 I	3前	○	2				○		5	3				
		心理学専門演習 II	3後	○	2				○		5	3				
		心理学専門演習 III	4前	○	2				○		7	2				
		心理学専門演習 IV	4後	○	2				○		7	2				
		卒業研究	4通	○	4				○		7	2				
		小計 (5科目)	—	—	12			—		7	3					
	基幹科目	経営学	1前	○		2		○							1	
		企業分析論	2前	○		2		○							1	
		アントレプレナーシップ論	2休	○		2		○							1	
		広告心理学	3前	○		2		○							1	
		消費者心理学	3後	○		2		○							1	
		産業・組織心理学	3前	○		2		○		1						
		社会心理学実験・実習	2後	○		1			○	1						
		知覚・認知心理学	2前	○		2		○			1					
		色彩心理学	2前	○		2		○			1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員（ 助手を 除く） 以外の 教員			
専門 教育 科目	基 幹 科 目	色彩学	2後	○		2		○								1	メディア	
		音楽心理学	2後	○		2		○								1		
		心理学プログラミング実習	3後	○		1				○						1		
		小計（12科目）	—	—		22		—		1	1					7		
	公 認 心 理 師 ・ 臨 床 心 理 士 コ ー ス	発達臨床心理学	2後	○		2		○									1	共同
		臨床心理学実習	2後	○		1					○		1				1	
		カウンセリング	3前	○		2		○					1					
		精神疾患とその治療	3後	○		2		○				1						
		心理的アセスメント	3前	○		1					○						1	
		青年心理学	2前	○		2		○									1	
		福祉心理学	2前	○		2		○									1	
		障害者・障害児心理学	3後	○		2		○									1	
		司法・犯罪心理学	3前	○		2		○									1	
		関係行政論	3後	○		2		○					1					
		公認心理師の職責	3前	○		2		○					1					
		心理演習	3前	○		2				○		1						
		心理実習	3通	○		2					○	7						
		神経・生理心理学	3後	○		2		○									1	
		健康・医療心理学	2前	○		2		○									1	
		人体の構造と機能及び疾病	3後	○		2		○									1	
		心理専門職演習Ⅰ	1後	○		2		○				1						
		心理専門職演習Ⅱ	2通	○		2		○				1						
		心理専門職演習Ⅲ	3通	○		2		○				1	1					
		心理専門職演習Ⅳ	4通	○		2		○				1						
	小計（20科目）	—	—		38		—		7	2						8		
	学 部 内 共 通 科 目	デザイン思考論	1後			2		○				1						
		プレゼンテーションの技法	2後			2		○									1	
		ビジネス心理学	1前			2		○									2	
		経済心理学	2前			2		○				1						
		マーケティング論	2後			2		○									1	
		小計（5科目）	—	—		10		—		2							3	
	発 展 科 目	粧いの心理学	1前			2		○									1	メディア
		子どもから見た世界	1後			2		○									1	
		発達心理学	2後			2		○									1	
		教育・学校心理学	3前			2		○				1						
		自然環境と心理	1前			2		○									1	
		スポーツ心理学	2前・後			2		○				2						
		情報と統計	1後			2		○									1	
		心理学統計法	2後			2		○					1					
		多変量解析	4前			2		○				1						
		心理学実験	3後			1							1					
		海外心理学研修	1休			2						1						
		小計（11科目）	—	—		21		—		5	1						5	
合計（139科目）		—	—		54	187		—		25	6	3	1			49		
学位又は称号		学士（心理学）			学位又は学科の分野			文学関係										
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
必修科目54単位、共通教育科目の選択科目から4単位以上、専門教育科目の 選択科目から42単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位未満（年間））									1 学年の学期区分			2期または4期						
									1 学期の授業期間			15週または8週						
									1 時限の授業の標準時間			90分						

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合

- する場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
 - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
 - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
 - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
 - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
 - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
 - 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	ベーシック・スキル	基礎演習Ⅰ	○	親和行事、学科行事を体験することにより、親和の建学の精神を身につけるとともに、大学生としての基本的なコミュニケーションスキルを身につける。4年間の学習計画を立て、大学で学ぶことと自分の進路を明確にする。大学での履修の仕方を学び、自分の進路を実現するための科目履修、効率的に学ぶ姿勢を身につける。授業を聴き、文献を読み、レポートを書く上での基本を身につける。最終回の授業に今までのまとめとして、レポートの提出を課す。
		基礎演習Ⅱ	○	大学での学びの基礎となる主題の設定、調査の仕方、論理的な文章の組み立て方をポスターセッションとレポート作成を中心に学ぶ。主体的にテーマを設定し、調べた結果と自分の意見を論理的にまとめることができる、ポスターセッションを通じてグループでの課題設定や問題解決ができる、この演習の集大成として行われるレポートコンテストへ応募する文章を書くことを目指す。
		健康行動学	○	私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れている。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関しての様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学ぶ。健康状態の判定（血圧と体重からみえてくるもの）、慢性腰痛、健康の三要素、健康とストレスを学び、生活スタイルを見直し改善できるようになることを目指す。
		ICT基礎Ⅰ	○	パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶ。
		ICT基礎Ⅱ	○	エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。
		総合英語Ⅰ	○	中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に把握し、より一層の伸長を促す科目である。対象は「リスニング力」と「リーディング力」であり、日常生活で活きる「英語で聞く・読む能力」を測定するために、TOEIC Bridge Listening & Reading Testsを学年終了時に実施し、スコアを把握する。また、春学期終了段階で模擬テストを実施し、スコアを測定し、秋学期にむけた学習課題を明確にする。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を実施し、3年次、4年次での就職活動に備える。中・高で培った英語能力が国際基準ではどの程度の力を持つのかを意識し、より高度な国際的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。加えて、総合的な実践的英語力の基礎として中・高で学んできた「英文法」の復習を行い、TOEICスコアの伸長の下支えを行う。
		総合英語Ⅱ	○	総合英語Ⅰに引き続き、中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に把握し、より一層の伸長を促す科目である。対象は「リスニング力」と「リーディング力」であり、日常生活で活きる「英語で聞く・読む能力」を測定するために、TOEIC Bridge Listening & Reading Testsを秋学期終了時に実施しスコアを把握し、春学期実施の模擬テストとの比較、過年度との比較を行い。今後の科目実施の改善にも資する。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を実施し、春学期同様に3年次、4年次での就職活動に備える。中・高で培った英語能力が国際基準ではどの程度の力を持つのかを意識し、春学期以上に高度な国際的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。加えて、総合的な実践的英語力の基礎として中・高で学んできた「英文法」の復習で春学期では実施していない文法項目を行い、TOEICスコアの伸長の下支えを行う。
		ワーク&ライフデザインⅠ	○	社会では、自らの判断と創造が要求されるが、責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生は、そこに至る基本的な考え方と知識を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた就職活動時に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。ワーク&ライフデザインⅠでは、「自分のキャリアをつくっていく上で求められる考え方や知識」や「自分の言葉で語ることがいかに重要であるか」を理論的・体験的に学ぶ。

授業科目の概要					
(心理学部心理学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	ベ イ シ ッ ク ・ ス キ ル	ワーク&ライフデザインⅡ	○	目標設定が果たす大きな役割について学習し、その目標達成のために自分が向き合うテーマが何であるかを理解する。さらに、目標達成のプロセス上で、ぶつかるであろう諸問題への解決方法についても学び、大学生活を戦略的に創り上げることが、これから社会生活をおくるうえで極めて重要であることを理解出来るよう進める。問題を解決する論理思考についても練習をする。 大学1年生の1年間で積み上げてきた自らの大学生活を振り返り、自分自身の成果を確認する。その上で、改めて目的・目標を設定し、その達成のために、何が必要かを学ぶ。私達が社会生活をおくるうえで必要な基礎力を身に付け、3年生以降直面する進路選択も視野に入れた学習をする。	
	リ ベ ラ ル ア ー ツ	Interactive English I		Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work. Classroom Goals: 1: Improve student English communication skills. 2: Build speaking and listening confidence. 3: To be interested in and familiar with English-speaking culture. 対話的な練習を通して、英語運用能力を向上させる。スピーキング力とペアワークに重点を置く。文法には大きく重点を置かず、リスニングとスピーキングの技能を重視する。学生はペアワークやグループワークに積極的に参加することが求められる。 授業目標： 1. 英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 2. 話すこと・聞くことに対して自信が持てるようになる。 3. 英語圏の文化に興味を持ち、親しむ。	
		Interactive EnglishⅡ		Improve English ability communicatively through interactive practice. Focus on speaking proficiency and pair work. Emphasis on listening and speaking skills without major focus on grammar. Students will be expected to participate actively in pair and Group work. Classroom Goals: 1: Improve student English communication skills. 2: Build speaking and listening confidence. 3: To be interested in and familiar with English-speaking culture. 対話的な練習を通して、英語運用能力を向上させる。スピーキング力とペアワークに重点を置く。文法には大きく重点を置かず、リスニングとスピーキングの技能を重視する。学生はペアワークやグループワークに積極的に参加することが求められる。 授業目標： 1. 英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 2. 話すこと・聞くことに対して自信が持てるようになる。 3. 英語圏の文化に興味を持ち、親しむ。	
		Interactive EnglishⅢ		This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear communication. It will equip students with the skills needed to communicate with English speakers in their communities, work in companies, and access global information. Additionally, it will help students build vocabulary and other essential language skills for tests such as TOEIC. The course takes a balanced approach to all four language skills, enabling students to complete tasks such as reading, writing, and participating in discussions, with content adapted to their proficiency levels. By developing these skills, students will be better prepared to navigate academic, professional, and everyday interactions in English with confidence. 本授業は、明確なコミュニケーションを重視し、英語を対話的に使用することに重点を置く。地域社会における英語話者との交流、企業での業務、そして世界的な情報へのアクセスに必要なコミュニケーション能力を身につけられるようにすることを目的とする。さらに、TOEICなどの試験に必要な語彙力やその他の重要な言語技能の向上も支援する。 本授業では、英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく扱い、学生の習熟度に応じた内容で、読解、作文、ディスカッションへの参加といった課題を遂行できる力を育成する。これらの技能を身につけることで、学業、職業、日常生活のさまざまな場面において、自信をもって英語で対応できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	リベラル アーツ	Interactive EnglishⅣ	This course emphasizes the interactive use of English, focusing on clear communication. It will equip students with the skills needed to communicate effectively with English speakers in their communities, work environments, and when accessing global information. Additionally, students will build vocabulary and other essential language skills for tests such as TOEIC. They will also learn how to identify and use basic figurative language, such as similes, metaphors, and oxymorons, through supplementary activities. The course takes a balanced approach to all four language skills, enabling students to complete tasks like reading, writing, and participating in discussions, with content tailored to their proficiency levels. By developing these skills, students will be better prepared to navigate academic, professional, and everyday interactions in English with confidence. 本授業は、明確なコミュニケーションを重視し、英語を対話的に使用することに重点を置く。学生が地域社会や職場環境における英語話者との円滑なコミュニケーション、また世界的な情報にアクセスする際に必要な能力を身につけられるようにすることを目的とする。さらに、TOEICなどの試験に必要な語彙力やその他の重要な言語技能の向上も図る。 加えて、補助的な活動を通して、直喩・隠喩・矛盾語法（オキシモロン）といった基本的な比喩表現を理解し、使えるようになることを目指す。 本授業では、英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく扱い、学生の習熟度に応じた内容で、読解、作文、ディスカッションへの参加といった課題を遂行できる力を育成する。これらの技能を身につけることで、学業、職業、日常生活のさまざまな場面において、自信をもって英語で対応できるようになることを目標とする。	
		留学英語	本学で行なっている短期留学や長期留学（1年間）の事前指導を目的とし、海外研修中に必要となる様々な状況に対する英語表現のうち、選された基本的な表現修得149の修得を目指す。さらに、ホストファミリーとの会話表現、学校生活での会話表現、日々の生活での会話表現、空港の出入国時の表現などを修得し、短期、長期にかかわらず、留学スタート時の英語力を高め、海外での生活がより一層楽しくなることを目指す。 英語表現と並行して、留学中の場面で知っていれば便利な英単語の修得演習も行う。	
		中国語Ⅰ	ピンインを見て、正しく発音ができ、簡単な挨拶や自己紹介ができることを目標とする。テキストをもとに、「聞く、話す、読む、書く」の技能全般をバランスよく学習していく。CD、DVDなどを利用して、既習した内容の理解を深め、更に先生との口頭練習とグループの会話などによって、定着させる。受講生の積極的参加を前提とする。この授業は、正確な発音の習得と基本になる構文から簡単な会話や聞く力の養成を目指す。	
		中国語Ⅱ	中国語Ⅰを習得した学生を対象に、テキストに基づいて、新しい語句、会話文を繰り返し暗記することによって、基礎文法をしっかり身につけ、簡単な日常会話ができることを目指す。授業では、日付・時刻の言い方、動作の時点を言う表現、助動詞、前置詞、反復疑問文、「是～的」の構文などを学ぶ。習得した知識を確認しながら、新しい文法や語彙を身につけていく。文法事項への理解を深め、会話力をアップし、初級中国語の総合的な力を養うことを目的とする。	
		韓国朝鮮語Ⅰ	韓国朝鮮語の文字と発音からはじめ、韓国朝鮮語を理解するために必要な文法事項と基本的な会話表現を学び、「話す・聴く・書く・読む」の4技能の総合的な運用能力を習得する。ハングル文字と発音を習得し、韓国朝鮮語で書かれた簡単な文の読みと作文の書き、簡単な自己紹介ができるようになることを目指す。	
		韓国朝鮮語Ⅱ	韓国朝鮮語Ⅰに引き続き、テキストに沿って基礎文法と基本的な会話表現などを学ぶ。「話す・聴く・書く・読む」の4技能の総合的な運用能力が習得できるようにする。基礎文法や会話表現を習得し、慣用表現などを駆使して日常の身近なテーマについて話ができることを目指す。また与えられたテーマについて簡単な韓国朝鮮語で自分の意見を述べられることを目標とする。	
		哲学	人間が自ら招いた自らの危機を克服する第一歩は、人間自身についてよく知ること。本講義では、人間について、生誕、愛、労働、死という4つの局面から、それぞれの時期に直面する様々な苦しみ・悲しみや喜びについて考え、人間の本質に迫り、現代に求められる生き方について考察する。日常の様々な問題に気づけるようになる、世の中の様々な価値観やものの見方を批判的に検討できるようになる、自分自身の考え方を客観化し、他者の考え方と比較・検討できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	リ ベ ラ ル ア ー ツ	心理学概論	本講義の目的は心理学のおおその全体像をつかむことである。見たり聞いたり感じたり考えたり、ときには悩んだりといった人間の行動のすべての側面が心理学に関わっている。私たちが日常的にイメージする「こころ」よりも遥かに広い領域が心理学の対象である。その中から基礎的な領域（感覚、知覚、記憶、学習、発達、男女差、ストレスと接触障害など）を中心に概説する。	
		法学	法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための「規則」である。そのため、自然科学的な「法則」とは異なり、1つの問題に対する回答（考え方）も多様で、唯一絶対的な答えというものがない点で非常に面白い。 このような法の特色と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている紛争に、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかなる基準を用いて解決しているかについて、具体的な事件を参照しながら理解することを主たる目標とする。	
		社会学	社会を知るということは、単に知識量が多いことを意味するのではなく、社会について「考える」ことが必要である。社会学という「社会を考える方法」というツールを通すことで、現代社会における人々の生活や、それが引き起こす社会問題について理解を深める。社会について理論的に考える方法が分かる。自分の経験や知識を相対化することができる。	
		日本国憲法	憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理により公権力に制限ないし規制を加え、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。これらの規定の解釈とその適用について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法上の諸問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。	
		政治学	政治活動や国際関係の実際を考察する。具体的には、メディアと政治、水資源の民営化と戦争、環境問題と国際関係、戦争の民営化、「子ども兵」問題、災害援助・食糧援助による国益、ダイヤモンド利権と国連平和維持活動、宗教団体と国際政治、日本の領土問題等を考察する。世界で発生している諸問題を、「常識」や「固定観念」にとらわれることなく、様々な視点から考察できるようになることを目指す。	
		経済学	経済学では、土台となる経済とその背後にある考え方を取り上げていく。具体的には、経済を動かす仕組みと構成要素、市場と国民経済・国際経済、不確実性・危険と経済、市場の役割とゲーム的な世界、日本の歴史と経済の歩みなどについて学ぶ。「経済学」を通じて、社会の潮流にかかわる理解ができるとともに、現代と世界を生きるうえで、AIや世界の激変にも負けないヴィジョン力を育成することを目標とする。	
		世界の現状と課題	長引くロシアとウクライナの戦争やイスラエル・ガザ戦争などで、世界はいま大きく揺らいでいる。混沌、複雑、多様化する国際情勢に目を向け、それぞれの現状と課題を正しく把握することは、グローバル世界に生きる私たちに欠かせないものである。授業では、2つの戦争をはじめ、トランプ米政権と国際社会など世界が直面するさまざまな課題について、政治・経済・社会・文化・教育・スポーツ等の分野別、また国別・地域別に詳しく解説し、理解を深める。学生同士の意見交換を通して、考える力や意見を発表する力、コミュニケーション力などを身につける。	
		現代と金融	少子高齢化の進展等に伴い、我が国の公的年金の財政状況は一段と厳しさを増す状況にある。自立した生活を送るためには、若年時から生涯を見通した家計管理や生活設計を考え、実践していく必要がある。特に学生時代には、就職における意思決定がその後の経済生活を大きく左右することへの認識を持つことや、労働の対価として得た収入を計画的に配分することなどをはじめ、税や社会保障の仕組みを含めた生活に必要な金融リテラシーを身に付けることが重要である。 現代と金融では、我が国の金融の仕組みや金融取引に関する基礎的な知識を習得するとともに、実際の資産形成や資産運用に関わる実践的な能力の基盤を養うことを目的とする。	
		高大連携科目	（教育） 高校生と大学生が協働して、今の教育課題に関して具体的にに取り組む活動を通して、主体的に学ぶことにより、思考力・判断力・表現力とともに、次代を生き抜く力を身につける。 （探究） 高校生と大学生が協働して探究活動に取り組み、主体的に多様な人々と協働して学ぶことにより思考力・判断力・表現力とともに、これからの新しい時代を生き抜く力を育成する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	リ ベ ラ ル ア ー ツ	女性学	女性差別が生まれた過程や女性解放に取り組んだ歴史を知り、「性別にとらわれない生き方とは」を考える。社会におけるジェンダーをめぐる諸課題に関心を持ち、SDG s のゴール5が掲げるジェンダー平等の社会の実現に向け、自分なら何ができるのかを考えることを目標とする。	
		基礎体育学	現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められており、特に、幅広い年齢層による身体不活動（運動不足など）の問題がクローズアップされている。本講義では、身体活動を通して3つの健康（身体的健康・精神的健康・社会的健康）にアプローチしたうえで、幅広い視野から研究実践を行う。①運動の理解と体力の維持、向上、②人間関係の構築と友人作り、③集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶ。	
		物理学	教養として身につけておくべき物理学の基礎についての講義を行う。日常生活で目にする現象を物理の視点から考える。例えば晴れた日の空が青いのはなぜか、夕焼けが赤いのはなぜか、海が青いのはなぜか、虹はなぜ見えるのかなど。高校で物理を学習していない学生にも理解できるように複雑な数式や法則をせずに基本となる概念と考え方を平易な言葉で実験や動画を交えて解説する。内容は、「単位とは(国際単位系SI)」、「物体の運動とエネルギー」、「熱と温度」、「電気と磁気」、「縦波と横波(音と光)」、「放射線と原子力」などである。	
		栄養学	近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。	
		数学	本講義では、一般教養としての基礎・基本を復習しつつ、高等学校1年の数学につながる内容を取り扱う。講義と問題演習（テキストを購入する）を通して、高等学校1年数学の必須学習内容として、「数学Ⅰと数学Aの基礎」を確認・修得することを目的とする。授業の内容は、①数と式、②関数、③図形、④集合と命題、⑤資料の整理などである。また授業では、主に小・中学校の既習事項を活用して考えるクイズ的な数学の問題により、数学に対する興味・関心を高める。数学の学習四分野である①数と式、②関数、③図形、④資料の整理の4分野において、（1）教養としての数学の基礎力を確認し、（2）脳を刺激して「柔軟な発想力」を養い、（3）正しい道筋で考える「論理的思考力」を身に付けることを目標とする。	
		神戸学	国際都市・神戸は古代から港とともに発展してきた過程がある。神戸のまちがどのような歴史を刻み、現在のまちを築き上げたのか。1000年に及ぶ歴史を振り返りながら、文化、観光、くらし、グルメ、ファッションなどを通して、近代日本をけん引した神戸の人とまちの姿を浮き彫りにする。神戸のことなら一通りは説明できる知識と教養を身につけることが目標である。神戸から世界、世界から神戸を見つめる「グローバル」な視点、考え方を授業で養う。	
		多文化社会	多文化社会とは、少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指す。その果実が、それぞれの文化が出会うことによる、より豊かな文化の創造である。この講義では、①ステレオタイプや偏見など、先行研究を手がかりに、他者との関わりについて学ぶこと、②「難民」という言葉を手がかりに、社会の中で周縁化されてきた存在に着目し、文化、価値観が多様化する日本社会の新しい姿を考え、そこに暮らす多様な人たちの権利に関する理解を深めること、③多文化共生に求められる視点と共生社会の実現に向けて日本語教育が果たす役割について理解を深めることを目的とする。	
		国際理解教育論	本授業では第二次大戦後にユネスコの提唱した国際理解を促すための教育を理解し実践するための基礎的な考え方と知識を提示し、現代世界の課題について議論を深める。文化的多様性や国家の主権といった概念を知るとともに、それらを応用し、紛争や貧困、移民・難民問題、人種差別やジェンダーなど、さまざまな地球的課題についての理解を深めることを目指す。また、国際社会における主体性と、多文化共生を実現するための思考の仕方を身に付けた人を涵養する教育のあり方、国際社会における主体性と、多文化共生を実現するための思考の仕方を身に付けた人を涵養する教育のあり方について学ぶ。	
		海外語学研修	アイルランドのコーク大学のランゲージセンターにおける3週間（60時間）の英語プログラムを受講することで、英語によるコミュニケーション力の向上とともに文化の多様性に関する学びを得る。日常生活に必要な英語表現を運用できること、英語プログラムの授業において積極的に発言できること、文化の多様性を認識し、柔軟に対応できることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	リベラル アーツ	アジア文化研修	近年、日本とベトナムとの交流は質量ともに充実しつつある。経済協力や観光のみが着目されがちであるが、ベトナムは中国文明の影響を受けつつ、独自の文化を育て上げてきた点では日本と共通点が多い。この研修ではホーチミン師範大学を訪問し、日本語学部の学生たちと双方向的な学びを実践しつつ、ベトナムの文化や歴史について理解を深める。	共同
		エアライン演習	航空業界への就職を希望する学生、ホテルなどサービス業界への就職を希望する学生などを対象に、韓国の韓瑞大学校が実施しているキャビンアテンダントプログラム研修(夏季2週間)に参加することにより、キャビンアテンダントやグランドスタッフの航空業務の理解についての理解を深める。研修の内容は機内サービス業務と保安業務、面接におけるプレゼンテーション等からなり、食事提供など接客ロールプレイ、ウォーキング、メイクアップレッスン、飛行場実習、話し方実習、プレゼンテーション等の予定である。	
		情報科学	インターネットや携帯電話、また、TVや雑誌などのマスメディア等、高度情報社会では様々な情報が氾濫している。しかし、その仕組みを知らないことも多く、そのために情報をうまく活用できないこともあり、さらには犯罪に巻き込まれるケースがある。この講義では、現在の仕組みやマナー・ルールを概説し、グループ活動による演習形式で理解を深める。	
		メディア・リテラシー論	わたしたちは、様々なメディアが発信する情報に取り囲まれて暮らしている。そうした情報社会の中で主体的に生きていくためには、メディアと批判的・創造的にかかわっていく力「メディア・リテラシー」が不可欠である。この授業では、自分とメディアのかかわりを振り返ることを出発点として、テレビや新聞といったマスメディア、SNSを始めとするインターネットメディア、それぞれの特徴を知り、主体的に情報を取捨選択できる力を育成すること、さらに自らが情報発信を行う側に立つ際に留意すべき点などについて、参加者のディスカッションを中心に考えていく。	
		AIとデータサイエンス	今後のデジタル社会において、データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目的とする。本講義では、データAIの活用領域、データ・AIを利活用するための技術、データ・AIの活用の現場、データ・AIを扱う上での留意事項、データを守る上での留意事項などについて学ぶ。	
		情報処理演習	情報社会におけるリテラシーとしてプログラミングの基礎を学ぶことを通して、コンピュータのしくみや原理への理解やアルゴリズム的思考の理解を深める。構造化プログラミングやオブジェクト思考の基礎を学び、意図した動作をプログラミングによって実現できる力を身につける。基本的なサーチ、ソートアルゴリズムについて説明できるようになる。プログラミングを通して、問題解決のプロセスをコントロールする力を身につける。	
	キャリア デザイン	キャリアデザインA	主に企業就職や公務員就職を目指す学生を対象に、社会で活躍する方々から現場の実情を学び、早い段階から職業観を形成することを目的とする。また、「社会で求められる力」を理解するとともに、自分に不足している力を見つめ直し、3年次以降の進路選択に向けて主体的に行動できる姿勢を養う。	
		キャリアデザインB	本授業では、大学生活を振り返りつつ、自分の価値観や働き方を明確にし、キャリアプランを主体的に描く力を養う。また、予測不能な未来に対応できる前向きな姿勢と、就職活動を人生設計の一環として活用する意識を育てる。さらに、社会で必要とされるスキルや考え方を身につけ、学生一人ひとりが自分らしいキャリアを実現するための準備を進める。これまでの人生の振り返りとこれからの自分の再考、キャリアマインドの深化と主体的な進路設計、未来へのポジティブな姿勢と必要な力の習得を目的とする。	
		実践教育活動A	本学が認定する機関(自治体、学校、組織)において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。本活動により、①他者との協働による課題解決力、②社会の変化と多様性への対応力、③DX時代に対応する知識とスキルを身につけることのいずれかを伸長させることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	キャリア デザ イン	実践教育活動B	本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。本活動により、①他者との協働による課題解決力、②社会の変化と多様性への対応力、③DX時代に対応する知識とスキルを身につけることのいずれかを伸長させることを目標とする。	
		実践教育活動C	本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。本活動により、①他者との協働による課題解決力、②社会の変化と多様性への対応力、③DX時代に対応する知識とスキルを身につけることのいずれかを伸長させることを目標とする。	
		実践教育活動D	本学が認定する機関（自治体、学校、組織）において、本学学生が主体的に取り組む一定の要件を満たした社会貢献等の活動に対して「実践教育活動」として単位を認定し、「新たな社会の価値を創造する人材育成」という本学のパーパス(purpose)を実現するとともに当該活動の持続的実施や学生自身のキャリア形成の深化を目的とする。実践教育活動は全学的な教育プログラム「SHINWA実践教育プログラムSAIL; SHINWA Action Integrated Learning」に含まれ、学外・学内の相互の学びから、生涯学び続ける力、社会の未来を創る力を養うものである。本活動により、①他者との協働による課題解決力、②社会の変化と多様性への対応力、③DX時代に対応する知識とスキルを身につけることのいずれかを伸長させることを目標とする。	
		資格認定科目A	国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し、その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定する。学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。	
		資格認定科目B	国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し、その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定する。学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。	
		資格認定科目C	国家的・国際的な水準での試験や資格取得に挑戦し、その学修の過程や成果を本学における学修成果の一部として認定する。学生の主体性を育むとともに各学部・学科のディプロマ・ポリシーや専門性と深く関わる資質・能力を更に向上させることを目的とする。	
		インターンシップA	将来目指す職業や関連する分野の現場を実際に経験することで、自分の専攻や研究への理解を深めるとともに、自分の適性を知る機会を提供する。また、現場での学びを通じて、志望する業種や職種をより具体的にイメージし、就業後の環境への適応力や実践力を身につけることを目的とする。	
		インターンシップB	将来目指す職業や関連する分野の現場を実際に経験することで、自分の専攻や研究への理解を深めるとともに、自分の適性を知る機会を提供する。また、現場での学びを通じて、志望する業種や職種をより具体的にイメージし、就業後の環境への適応力や実践力を身につけることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	日本語コミュニケーション(留学生)	日本語(基礎)Ⅰ	すでに獲得している基礎的な日本語の文法知識を、正しく運用できるようにすることを目指す。動詞の活用体系および主要助詞の運用などの文法項目を整理して再確認することで、複雑構文の習得に必要な基盤を強化する。具体的には、複文構造、推量・仮定表現、伝聞・様態表現、結果・完了表現を体系的に教授する。	
		日本語(基礎)Ⅱ	文章を正しく理解し、情報を整理して要点をつかむ力を養うことを目的とする。複文表現、推量表現、伝聞表現を導入して文章理解をすすめる。短い会話文や案内文などから情報を抜き出す練習を行う。また、ニュース記事やエッセイを題材に、段落構成や筆者の意図を読み取る練習をすすめる。さらに、読解ストラテジーとして、キーワードの把握、接続詞の役割理解、文脈から意味を推測する方法を身につける。	
		日本語(基礎)Ⅲ	作文に必要な文法や語彙を活用しながら、自分の考えや経験を文章で表現する力を養うことを目的とする。日常生活の身近な話題をテーマにした文章からレポート作成へつながるよう、短い文から段落構成を意識した文章作成へと発展させて指導していく。文章全体の流れや段落構成を重視した自然な文章作成を目指す。	
		日本語(応用)Ⅰ	複雑な会話や説明文を理解し、要点を把握し、必要な情報を整理する力を養うことを目的とする。正しく聞き取るための語彙や文法表現を確認して音声理解につなげる。学習者は要点をメモし、質問に答える活動を通じて理解を確認する。さらに、聴解ストラテジーとして、イントネーションや強調の聞き取り、話題の転換を示す表現の把握、文脈から意味を推測する方法を身につける。	
		日本語(応用)Ⅱ	大学における必要なコミュニケーション力を身につけることを目指して、推量・仮定表現や敬語など、会話に必要な文法や語彙を導入する。ロールプレイやペアワークで日常生活や社会的テーマに関する会話練習を行い、適切な応答や会話の継続を学ぶ。さらに、ディスカッションを通じて意見を整理し、論理的に伝える力を養う。	
		アカデミック・ジャパニーズⅠ	大学生にふさわしい、理論的かつアカデミックな文章を、正確にわかりやすく書く力の育成と定着を目指す。専門的な文章を書くために必要な表現力を身につけ、できるだけ正確な日本語のレポートが書けるようになることを目的とする。文法(助詞、他動詞、自動詞、接続詞、呼応・文末表現)、ひらがなと漢字のバランス、句読点について、その他語彙・表現を広げるための授業を行う。	
		アカデミック・ジャパニーズⅡ	大学での講義を聞く、専門書を読む、レポートを書く、発表をするなどの学習活動を円滑にするための日本語を身につけるために、その基礎となる中級から上級レベルの文法を学ぶ。学習活動(特に文章作成)において、学び得た知識が運用できる。主に、助詞の働き(時間・原因・理由・限定・協調・逆説・程度等)、文末表現を中心に授業を進め、学習活動(特に文章作成)において、学び得た知識が運用できることを目標とする。	
		アカデミック・ジャパニーズⅢ	文学・評論・自然科学の分野のほか、さまざまな著名な作品を読みながら、今まで身につけた「読み」の日本語力を拡大し、深めていく。また、作品を通して日本人の考え方、文化を学ぶ。さらに、縦書きの文章に慣れる。ことばの意味を確認したうえで、文章の構造、文法を理解しながら内容を理解し、内容理解の問題を解くよう授業を進める。	
		アカデミック・ジャパニーズⅣ	中上級から上級レベルの文法で、混乱しやすい動詞を中心に、基本的な形と意味・機能をしっかりと把握し、文脈での使い方や類似表現との使い分けができるようになる。自動詞と他動詞/使役/受身といった文法を形と意味、使い方、発展的利用を整理し、会話や文章のなかで正しく自然に表現できるようになる。時事問題なども取り上げ、日本語の理解力と語彙力の向上を目指して練習する。	
		アカデミック・ジャパニーズⅤ	多様な文章を正確かつ批判的に読み取り、その内容をもとに自分の考えを論理的に構築し、他者と対話しながら理解を深めていく力を育成する。留学生が日本語で高度な学術的コミュニケーションを行うためには、単に文章を理解するだけでなく、背景にある価値観や前提を読み解き、異なる立場の意見を尊重しながら議論を進める姿勢が不可欠である。本科目では、読解・要約・意見形成・討論という一連の過程を通して、学習者が日本語で主体的に思考し、発言できるようにすることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	日本語コミュニケーション(留学生)	アカデミック・ジャパニーズⅥ	専門の文章(入門書や論文など)が読めるようになるためのヒントとなるストラテジーを学ぶ。また、社会科学の各分野、経済学、法学、社会学、国際関係学などの基本となる用語や知識を身につける。主題、論点、要旨を文章中から見つけることができ、対立する二つの立場における筆者の立場を見抜くことができ、社会科学における基本的な知識、用語を身につけ、専門の文章を読むときのストラテジーを身につけることを目的とする。	
		アカデミック・ジャパニーズⅦ	論理的な文章を書くのに必要な日本語力を身につけ、論文を書く力をつけることを目標とする。論理的な思考方法を身につける、日本語での論理的な文章の展開方法を学び、それを意識した文章構成を考える。日本語の正しい運用方法を身につけ、テーマに沿った文章を作成する。論理的な文章作成に必要な文体・表現を学び、さまざまなテーマ(歴史的な経緯、分類、定義、要約、比較・対照、論説文、資料の活用)で文章を作成する。	
		アカデミック・ジャパニーズⅧ	日本語で研究内容を発表する力を身につけることを目的とする。テーマに沿った資料収集の方法(文献検索、アンケート調査、グラフの読み取りなど)を学び、集めたデータを分析して考察を加え、発表原稿を作成する。聞き手を意識した話の構成や効果的な表現方法を身につけるため、話し方や資料の見せ方を練習する。発表の実践経験を積み、資料を見せながら発表する形式を身につける。	
		ビジネス日本語	ビジネス場面で必要となる日本語の基礎的な運用能力を養うことを目的とする。あいさつからビジネスマナーまで幅広く学び、状況に応じた自然な会話や、簡潔で礼を失しないメール文の作成能力を身につける。敬語の適切な使い方、社内・社外での表現の違い、電話応対やビジネスメールでの具体的な表現を習得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解したうえで、場面に応じて適切な表現を使いこなせる力を育成する。	
		日本語ライティング	卒業論文作成に向けて、自身の研究テーマに基づいた学術的文章を構築するための実践的な日本語運用力を養う。これまでに学んだ作文・レポート・小論文の基礎を踏まえ、研究の背景整理、先行研究の理解と引用、論文構成の設計、論理的な文章展開など、学術的ライティングに不可欠な技能を総合的に高める。各自の研究内容に即したアウトライン作成や先行研究の読み取りを中心に進め、卒業論文に向けて自立的に書き進めるための技術を磨く。	
		総合日本語Ⅰ	日本語能力試験N1レベルに必要な高度な文字・語彙力の養成を目指す。漢字の読み書きや音のパターンを体系的に学び、同音異義語・多義語・抽象度の高い語彙を文脈に応じて正確に使い分けられる力を身につける。授業では語彙の練習問題と解説を通して知識の定着を図り、復習テストで習得状況を確認する。N1合格に必要な語彙力に加え、学術的・専門的な文章に対応できる語彙運用能力の向上を目指す。	
		総合日本語Ⅱ	日本語能力試験N1に必要な高度で複雑な文法知識を体系的に学び、実際の言語運用に応用できる力を養う。意味が似た文法の使い分けを整理し、文脈に応じて適切に使えるよう学習を進める。授業では文法の練習問題と解説を行い、復習テストで理解度を確認する。最終的に、習得した文法を読解・聴解・表現活動に活かし、N1合格を超えて高度な日本語運用が可能となる文法力の育成を目指す。	
		総合日本語Ⅲ	日本語能力試験N1に求められる高度な聴解力の養成を目指す。自然なスピードの会話・ニュース・講義などを聞き取り、内容の流れや登場人物の関係、話し手の意図、論理構成を理解し、要旨を把握する力を身につける。授業ではN1対策用の問題を用い、指示・依頼・提案の聞き取り、話題や問題点の把握、慣用表現の理解、複数条件からの判断などに取り組む。試験対策だけでなく、実際のコミュニケーションにも活かせる総合的な聴解力を育成する。	
		総合日本語Ⅳ	日本語能力試験N1に求められる高度な読解力の向上を目指し、論理的に複雑な文章や抽象度の高い評論・論説を読み、文章構成や内容を正確に理解する力を養う。文章の流れや表現の細部を読み取り、筆者の意図や主張を把握する読解力の育成を重視する。授業では短文・中文・長文の内容理解、情報読み取り、主旨把握などのN1対策問題に取り組み、演習後に解答・解説を行う。試験合格に必要な力だけでなく、幅広い文章に対応できる総合的な読解力を身につけることを目標とする。	
地域共創科目	地域共創Ⅰ	○	本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要					
(心理学部心理学科)					
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
地域共創科目	地域共創Ⅱ	○	本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。		
	地域共創Ⅲ	○	本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。		
	地域共創Ⅳ	○	本学が位置する神戸市北区の行政と本学が一体となって設置する地域課題解決のプラットフォーム「神戸北未来共創アライアンス」に挙げられたリアルな地域課題について、本授業履修学生・大学教員・メンター・行政・地域関係者等多様なステークホルダーがプロジェクトチームを構成し、解決に向けて行動・実践し省察する。その経験の中で、学生は現実の社会解決に係る様々な知識・技能・思考・態度を学ぶとともに、本授業での活動が神戸市北区住民のwell-beingに資することを目指す。		
専門教育科目	基本科目	臨床心理学概論	○	臨床心理学は、病気や障がい、あるいは不幸な経験などによって引き起こされる心理的苦悩を軽減するために心理援助を行い、それを通して問題の解決や改善を目指す学問である。臨床心理学の基本的な理論モデル、臨床心理アセスメント、臨床心理技法について理解を深め、現代社会のさまざまな問題を臨床心理学的な視点で見つめられるようになることを目標として進める。社会のニーズに即応してさまざまな問題に対処できる専門的な方法について理解を深めることを目的とする。	
		発達心理学概論	○	子どもの発達および発達過程に関する基本的な知見や理論について理解できるようになることを目的とする。子どもの発達について関心をもち、発達心理学の研究成果などに接することにより、発達心理学を学ぶ上の基礎固めをしていく。具体的には、まず発達への遺伝と環境の影響について学び、主な発達理論を概観する。そして、胎児、新生児、乳児、幼児、青年、成人、高齢者と生涯にわたる発達の特徴について学んでいく。また発達障害のある児童の発達の特徴や発達についても理解を深めていく。	
		感情・人格心理学	○	性格や人格の理論的な背景、形成過程、測定方法、不適応との関連など人格心理学の基礎を学び、「性格や人格とは何か」について心理学的に考えることを目的とする。また、各種の人格検査を用いて自己分析をする課題も取り入れる。講義では主に①感情に関する理論及び感情喚起の機序、②感情が行動に及ぼす影響、③動機づけが行動に及ぼす影響、④パーソナリティの理論と測定等について説明する。感情の定義、理論等について理解し、身近な人間関係について感情心理学的な観点から捉えられるようになることを目標とする。	
		心理学実験・実習A	○	心理学では人のこころのメカニズムを理解するうえで、仮説を立て実証する能力を身に付けることが求められる。心理学実験・実習Aでは、仮説を立て実証するための具体的な方法として心理学における実験手法を理解し実践できるようになることを目的とする。実際に心理学で用いられた実験手法を体験するとともに、それらの基本的な考え方を学んでいく。また、得られた結果を報告書やレポートにまとめることを通して、成果を公表するための手順と技術を学ぶことも目的とする。 (大飼朋恵・権藤真織・濱本有希/3回) (共同) オリエンテーション、実験の振り返り、実験の在り方、レポートの書き方についての振り返り (大飼朋恵・権藤真織/1回) (共同) 実験レポートの書き方 (オムニバス方式/11回) (大飼朋恵/7回) SD法の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方 (権藤真織/7回) 両側性転移の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方 (濱本有希/8回) ストループ効果の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方	オムニバス方式 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基本 科目	心理学実験・実習B	心理学を学ぶ上で、先行研究を理解し、そこから仮説を導き、立証することが必要となる。心理学実験・実習Bでは、心理学実験・実習Aで学んだことを踏まえて、仮説を立て実証するための力を、実践を通して身に付けることを目的とする。具体的には3つの実験課題を課し、その中で先行研究を調べ、仮説を立て、それを立証するための方法を学び、結果のデータを分析し、考察する力を養う。また、成果を発表するうえで必要となる論文、レポートの書き方、考え方についても理解を深めていく。 (犬飼朋恵・濱本有希・木原陽子/1回) (共同) オリエンテーション (オムニバス方式/14回) (犬飼朋恵/10回) 一対比較法の実験と解説、結果とまとめ、レポートの書き方 (濱本有希/8回) ポリグラフ検査の実験と解説、結果とまとめ (木原陽子/8回) パーソナルスペースの実験と解説、結果とまとめ	オムニバス方式 共同 (一部)
		学習・言語心理学	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していることに気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけ(古典的、道具的)を理解することが必須である。学習・言語心理学では、①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序について論じる。そして、「人間の行動変容過程(学習)の基礎過程である2つの条件づけを理解すること」、「言語の獲得過程の機序について理解すること」、「一人ひとりの日常的な行動を行動分析学の視点から見つめられるようになること」の三つを到達目標とする。	
		社会・集団・家族心理学	人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きているためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。人間の行動や心の働きと、社会や他者とがどのように関連しているかについて理解を深めることを目的とする。講義では主に①対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての過程、②人の態度及び行動、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について説明する。そして、「人の行動が、他者や社会からどのような影響を受けているかを理解できるようになること」、「対人関係などの身近なテーマについて心理学的観点から考えられるようになること」を目標とする。	
		心理学研究法	私たちは、自分自身や周囲の人たちの「こころ」のはたらきに関して、毎日様々なことを経験している。そのような経験を通じて形成される知識は、時として誤っていたり偏っていたりするものである。心理学研究法Iでは、研究の基礎的な枠組みから実証的な研究方法に至るまで、心理学の研究法に関する幅広い知識と技術を修得することを目的とする。①心理学の科学的な考え方、②心理学の様々な研究手法の基礎、③心理学の実証研究に関わる書籍や論文を読める素養を身につけることを目標とする。	
		心理学的支援法	心理学的支援が求められる場面は、教育・医療・福祉、あるいは司法や産業など幅広く、多様である。各分野で必要とされる知識や技法等に違いはあるものの、心の専門家としての基本的な視点が存在し、それを身につけることは重要である。本授業では、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育について学ぶことを目的とする。	
	演習 科目	心理学専門演習Ⅰ	心理学専門演習Ⅰでは、臨床心理学、発達心理学、家族心理学、学習心理学、学校心理学、応用行動分析学など各教員の専門テーマをもとにゼミ形式での講義を行う。文献検索や発表、ディスカッションなどを通して、日常的に抱えている自分の興味や問題意識を明確化していく。そして、卒業研究に向けて興味のある研究テーマを見つけることを目的とする。また、本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができることを目標とする。	
		心理学専門演習Ⅱ	心理学専門演習Ⅱでは、ゼミ形式で講義をすすめるが、心理学専門演習Ⅰで検討した研究テーマについて、先行研究や関連文献を読むことなどを通して理解をさらに深めていく。そして、研究の目的や仮説の生成をすることを目指す。また、研究計画を作成し、研究を行うための方法論(実験や調査、文研研究など)を具体化していく。その他にも論理的な考え方、わかりやすい論文の書き方、議論の仕方など、科学的なアプローチに必要なスキルのブラッシュアップをしていくことを目標とする。	
		心理学専門演習Ⅲ	心理学専門演習Ⅲでは、卒業研究に向けて研究計画を練りこみ、データ収集のための準備を行う。各自の研究計画や目的に合わせ、調査項目の選定と調査票を作成することや、実験で用いるための刺激材料の作成、実験参加者集め、文献研究で必要となる文献データの収集などを行う。そして、データ収集後の分析や解析方法について理解を深める。また、研究を行うに際に必要な研究倫理基準を確認し、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策を理解しながら研究を遂行するための知識を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要						
(心理学部心理学科)						
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	演習 科目	心理学専門演習Ⅳ	○	心理学専門演習Ⅳでは、自身の興味関心・問題意識から絞り込んだ研究テーマについて、文献研究や実験・調査の実施とその分析、考察するための方法を身につけると共に、論文として表現できるようにすることが目標となる。ここでは、発表やディスカッションを通して、様々な文献を批判的に読解し問題点を導き出す力、収集したデータを科学的に分析し理解するための知識、客観的な視点から自分の意見を論じられるようになる表現力を身に付ける。		
		卒業研究	○	臨床心理学、発達心理学、家族心理学、学習心理学、学校心理学、応用行動分析学など様々な心理学に関わる知識を踏まえ、自身の興味関心・問題意識から研究テーマを設定し、研究論文を作成する。研究に必要な問題の設定や仮説を生成するための批判的思考、仮説を実証するための方法論（実験、調査、観察、文献）、様々なデータや文献をもとに考察する力を身に付ける。テーマの設定や方法、考察については専門演習などでの話し合い、指導などを行いながら取り組んでいく。		
	基幹 科目	ビジネス・社会心理 コース	経営学	○	人気のお店・グルメ・商品・製品・ドラマ・スポーツ・アニメ・ビジネスを事例として、経営戦略、経営管理・組織、マーケティング、会計・ファイナンスを学ぶことを目的とする。企業や組織・マネジメント戦略・ビジネス・組織マネジメント・マーケティング・アカウントの基礎的な概念や知識を理解・習得し、現実の経営課題に自身の解決アイデアを作成・提案できるようになることを目標とする。	
			企業分析論	○	経済社会を支える重要な制度・技術の1つである会計について、その最も基本的な構成要素である財務諸表の概説を中心に、会計の役割や会計ブームそして会計数値の利用手段などに関して、会計をはじめて学ぶ人にわかりやすいように解説することを目的とする。有名ハンバーガー・チェーンやカフェ・チェーンの経営手法比較、アパレル業や化粧品企業の特性、安心できる銀行の見つけ方、気になる会社の株価水準、就職したい会社のブランド価値などを、会計データを用いて分析する手法を身につける。	
			アントレプレナーシップ論	○	本授業は、アントレプレナーシップを、単なる起業技術ではなく、これからのVUCA時代で必要とされる「新しい価値の創造」「緊張やジレンマの調整」「責任を持つ行動」（OECDラーニングコンパス2030）のコンピテンシーを育てることを目的とする。そのために、社会学、教育学、公共政策、文化研究の視点から、主として「公共」「公益」の必要性について理解する。授業方法としては、事例研究を含めてグループによる主体的で対話的な学習を行う。	
			広告心理学	○	広告は企業が顧客に対して行う重要なコミュニケーション手段であり、社会において、数多くの心理学が活用されている。本授業においては、広告で活用できる心理学を自ら探し、実証していけるようになることを目的とする。課題解決型学習（PBL・グループ学習）を取り入れ、社会の実態に触れる機会をつくり、社会にでた時に、大学で学んだことを活かせる視座を持ってもらうことを目指す。広告、マーケティングコミュニケーション、広告心理の基本について講義する。	
			消費者心理学	○	日々商品を購入・消費するわたしたちの消費者行動について学ぶ。心理学をはじめとした理論だけではなく、実践についても理解を深めていく。具体的には、消費者理解、購買動機、二重過程理論、行動経済学などについて講義を行う。この講義を通して、消費者行動に対する理解が深まること、ビジネス現場で活用できるようになることを目標とする。	
			産業・組織心理学	○	組織の一員として働くときに、集団や組織において人はどのような心理状態を経験し、いかなる行動をとるのかについて理解することが必要である。産業・組織心理学では、主に①職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、②組織における人の行動について講義を行う。具体的には、集団意思決定、組織内コミュニケーション、リーダーシップ、ヒューマンエラー、ワークモチベーション、就労におけるストレスとサポート、キャリア形成と支援について学ぶ。	
			ビジネス心理学	○	マーケティング分野（マーケティング、消費者行動の基本）とマネジメント分野（モチベーション、チームビルディングの基本）の心理学について講義を行う。本講義を通して、“心理学の活用”を常に意識し、今後心理学について学んでいくうえでより意欲的に学んでもらえるようになることを目的とする。課題解決型学習（PBL・グループ学習）を取り入れ、実践の場で社会の実態に触れる機会を設ける。	
			経済心理学	○	人は理性的、合理的に行動しているように見えて、感情的、非合理的に行動していることが多い。経済心理学では、行動経済学的なアプローチを中心として、人間の心理面に注目しながら様々な経済現象について講義する。内容としては、経済学と心理学の関係、ヒューリスティクスとバイアス、プロスペクト理論、フレーミング、消費者の感覚と知覚などをとりあげる。人々の経済学的な行動を心理学を通して理解することを目指す。	

授業科目の概要					
(心理学部心理学科)					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	ビジネス・社会心理コース	マーケティング論	○	マーケティングの理論と実践を理解すること、マーケティングならではの発想ができるようになることを目標とし、購買・消費について、理論と実践を学ぶ。調査分析、ポジショニング、USP、ブランド、商品、流通などについて具体的な事例を取りあげる。	
		社会心理学実験・実習	○	社会心理学実験実習では、社会心理学で行われている様々なテーマの実験や調査をもとにし、実験者や参加者となって体験し、分析し、レポートにまとめていく。1年次の心理学実験・実習A/Bで学んだことをもとに、心理学の研究を行い論文を執筆するうえで必要な知識や技術を実践を通して身に着けることを目的とする。また、データをまとめるうえで必須となる基礎的な統計の知識も身に着ける。また、社会心理学のテーマである私たちが周囲の人から受ける影響を実験を通して考えることもこの授業の目的である。	
		知覚・認知心理学	○	私たちが普段何気なく行っている「見る」、「憶える」、「注意」などのこころの仕組みを明らかにしようとするのが知覚・認知心理学である。本講義では、主に①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害について解説する。知覚心理学や認知心理学の代表的な研究を紹介し、知覚・認知心理学的な手法の基本的な考え方を身につける。これにより、ヒトの心に対する科学的な見方を養い、社会での応用・実践のための知覚・認知心理学的な測定方法の基礎を習得することを目指す。記憶や視覚といった基礎的な研究と性差などの応用的・実践的な研究についても学ぶ。	
		色彩心理学	○	私たちは様々な色に囲まれて生活している。色彩心理学では、色が私たちの行動に及ぼす影響を理解するとともに、日常生活の中で色を効果的に利用する方法を学ぶ。具体的には、色が見える仕組み、色彩とイメージ、色彩の心理的效果、色彩が人に与える印象、色彩と調和、組み合わせの効果などについて学んでいく。本講義を通して、色が見える仕組みや行動に及ぼす影響を理解したうえで、実生活で色を効果的に利用できるようになることを目標とする。	
		色彩学	○	色は、私たちの暮らしの様々な場面で利用されている。また人が取得するほとんどの情報が視覚から入る情報である。そのため色は私たちの生活に大きな影響を及ぼす。色彩学では、人の色の認識の仕方を中心に、ファッション、企画の提案などのプレゼンテーション、家具やインテリア、広告や工業製品などのデザインといった様々な場面でどのように色が利用されているかについて学んでいく。感覚的に理解していた色の利用や影響について、色の理論や法則を学び、知識に基づいた色の利用方法を身に付けることを目標とする。	
	公認心理師・臨床心理士コース	発達臨床心理学	○	人は、誕生から死を迎えるまでの一生を通じて、成長・発達し続ける。発達臨床心理学では、胎生期から思春期までの発達特徴、および各発達段階において生じやすい心理臨床的諸問題について理解を深め、その支援方法について学ぶことを目的とする。具体的には、マルトリートメント、育児不安、発達障がい、不登校、不適応行動などについて理解を深める。発達における臨床心理学的知識を習得し、各発達段階の特徴を踏まえた支援方法を理解することを目標とする。	
		カウンセリング	○	本講義では、対人援助の基礎となるカウンセリングに関する理論と実践について学び、他者の話を聴き、主体的に理解する視点と技術や態度を身につけることを目的とする。カウンセラーとしての基本的な態度とクライアントの関係、精神力動的理論、行動論・認知論、パーソンセンタード・アプローチの理論に基づいたカウンセリングのあり方、カウンセリング技法として、受容技法、共感技法、分析技法を学ぶ。	
		精神疾患とその治療	○	精神医学は人間の存在を、生物学的、心理学的、社会的、倫理的に捉え、診断と治療はこれら多元的情報に基づき人間性を尊重しながら包括的に進められる。精神医学の歴史的・社会的背景、主な精神障害（神経発達症、統合失調症、双極症・抑うつ症、心的外傷及びストレス関連症、解離症・身体症状症など）やその治療や援助について学び、精神疾患・障害について、偏見のない視点を獲得することを目的とする。	
		心理的アセスメント	○	心理検査（新版K式発達検査、バウムテスト）を体験するだけでなく、心理検査を取り扱う際の注意点や基本的な心構えを習得する。更には目的、倫理をきちんと踏まえた上での心理アセスメントが行えるようになることを目的とする。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）、発達検査・知能検査の目的や倫理、性格検査・様々な病理の検査の目的や倫理を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要					
(心理学部心理学科)					
科目 区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	基 幹 科 目	公 認 心 理 師 ・ 臨 床 心 理 士 コ ー ス	青年心理学	○	青年期は子どもから大人へと成長する過程にあり、将来に向けて自らの生き方を模索する時期であると共に、心身共に不安定になりやすい時期でもある。この授業では、青年期の特徴や、心理的問題のメカニズムを検討し、理解を深めることを目的とする。具体的には、ピアジェの発達理論、アイデンティティなどの青年期の心理的特徴や、親子、友人、恋愛などの青年期の人間関係の特徴、ストレス、心身症、摂食障害などの青年期特有の心理的問題のメカニズムを検討し、理解を深めることを目的とする。
			福祉心理学	○	虐待、認知症、障害、ひきこもり、貧困など、福祉領域における心理社会的課題が深刻化している昨今、心理援助の専門職は、福祉領域における対人援助職と連携・協働して、これらの諸課題に介入していく必要がある。そのためには福祉分野の法制度や用語、福祉分野の心理支援のあり方を理解しておくことが必須である。本講義では、児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉などの社会福祉分野における諸問題に加え、各分野における法制度や支援施設とともに、福祉分野において必要な心理支援を学ぶ。
			障害者・障害児心理学	○	障害のある子どもや成人の抱える心理社会的課題及び必要となる支援について理解し、その理解の基本となる主要な障害の概要についても理解できるようになることを目的とする。本講義では、①知的障害、身体障害、精神障害及び発達障害の概要、②知的障害者、身体障害者、精神障害者及び発達障害者を取り巻く心理社会的問題について学ぶ。
			司法・犯罪心理学	○	司法・犯罪領域の基本的な知識を理解することを目指し、関連する法律や制度、期間を学ぶとともに、犯罪の発生状況、犯罪原因論、加害者や被害者の心理、加害者の矯正や被害者の支援、犯罪捜査支援、犯罪予防等について、様々な在り主や事例に触れながら学ぶことを目的とする。調査データや実験、統計に基づいた実証的なフィールド研究を多く取り扱い、実践的で科学的な犯罪心理学の考え方を身に着ける。
			関係行政論	○	公認心理師は、様々な人々を支援するため、多様な職業と連携しながらその職務を遂行する。そのため、公認心理師として業務を行うにあたり、行政関連の適切な知識及び技能を身に付ける。本講義では、①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野の5つの分野について、法制度や規定、社会の変化に対応した政策動向、行政機関の役割、支援を要する当事者の人権を尊重した心理専門職の関わりとその規定について、最新動向を踏まえ、正しく理解できるようにする。
			公認心理師の職責	○	心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について必要となる基礎的知識と具体的業務の理解、そして倫理観や多職種連携のあり方などを身に付けることを目的とする。講義では主に、①公認心理師の役割、②公認心理師の法的義務及び倫理、③クライアント・患者らの安全の確保、④情報の適切な取扱い、⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、⑥公認心理師に求められる自己研鑽、⑦他職種連携および地域連携について説明する。
			心理演習Ⅰ	○	公認心理師試験受験資格要件の指定科目であり、心理演習Ⅱと合わせて履修すること。本講義では、心理支援の現場（医療、司法、産業、福祉、教育）における知識及び技能の習得、地域支援の在り方を理解する。また、ロールプレイを通して、心理検査や心理面接の技法を学んでいく。心理演習Ⅰと心理演習Ⅱをあわせて公認心理師として活躍するための知識及び技能について、基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項（ア～オ）について理解を深める。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関して次の知識及び技能を修得する（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等）、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができること、（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチができること、（エ）多職種連携及び地域連携ができること、（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務が理解できること。
			心理演習Ⅱ	○	公認心理師試験受験資格要件の指定科目であり、心理演習Ⅰと合わせて履修すること。ここでは、支援計画の作成やチームアプローチを理解する、多職種連携や様々な現場での公認心理師の役割を理解していく。 心理演習Ⅰと心理演習Ⅱをあわせて公認心理師として活躍するための知識及び技能について、基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項（ア～オ）について理解を深める。（ア）心理に関する支援を要する者等に関して次の知識及び技能を修得する（①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等）、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができること、（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチができること、（エ）多職種連携及び地域連携ができること、（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務が理解できること。

授業科目の概要						
(心理学部心理学科)						
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
専門教育科目	基幹科目	公認心理師・臨床心理士コース	心理実習	○	公認心理師として活躍するために必要となる知識及び技能について、実習（80時間以上）を通して修得する。実習場所としては、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪などの分野があげられる。実習に行く前は事前学習（調べ学習、プレゼンテーション、ディスカッション）を行う。そして、見学実習と事後学習（実習日誌の作成、現場での気づきの発表など）を行い、様々な機関における心理支援の実際に触れる。そして現場におけるチーム支援や多職種との連携・協働について学ぶ。 （オムニバス形式/事前指導15回、実習30回、事後指導10回） （辻川典文/3回） 実習のオリエンテーション、事前指導 （椎野智子/8回） 保健・医療分野の事前指導、実習、事後指導 （三井知代/7回） 保健・医療分野の実習、学内実習、事後指導 （古川心/6回） 福祉分野、教育分野の事前指導、実習 （松本剛/12回） 教育分野の事前指導、実習、事後指導 （吉田圭吾/8回） 福祉分野の事前指導、実習、事後指導 （吉野俊彦/11回） 司法犯罪分野の事前指導、実習、事後指導 （辻川典文・椎野智子・三井知代・古川心・松本剛・吉田圭吾・吉野俊彦/5回）（共同） 成果発表	オムニバス方式 共同（一部）
			神経・生理心理学	○	本講義では、①こころの生物学的基盤である脳に関する基礎的な知識（脳の構造、機能）、②脳の各領域の損傷によって生ずるさまざまな障害（失語、失行、失認、記憶障害など）、③ヒトの脳活動を計測する非侵襲脳活動計測法について、解説を行う。本講義を通じて、脳の構造と機能の概要、神経心理学と生理心理学の基本的な考え方、脳の局所の損傷によって生じる神経心理学的な障害について理解を深めることを目標とする。	
			健康・医療心理学	○	健康・医療心理学では、①ウェルビーイングとは何かと、それを支える健康行動の心理学を理解すること、②健康リスクの現状を把握し、その支援方法を理解すること、③健康・医療心理学の課題を、医療や災害の場から理解することを目的とする。本講義では、健康とウェルビーイング、健康心理学と臨床心理学、感情と健康リスク、健康・医療心理学の臨床的展開などについて講義を行う。	
			人体の構造と機能及び疾病	○	本講義では、人体の構造と機能および心に作用する身体器官の仕組み、人の成長・発達と老化、関連疾患、様々な疾病や障害の概要、周産期医療、感染症対策、緩和ケア・終末期ケア、健康の概念・定義や健康増進の取り組みについて理解することを目的とする。	
			心理専門職演習Ⅰ	○	心理専門職は医療、福祉、教育、産業、司法など様々な分野で活躍している。また多職種連携の必要性も求められている。そのため本授業では、心理専門職の多様な役割と業務内容を理解する。加えて、心理士として活動するうえで必要となる法律や倫理基準を学び、「カウンセラーに必要な資質」を学んでいく。	
			心理専門職演習Ⅱ	○	心理専門職として活躍するうえで必要となる心理学の基礎知識を学んでいく。臨床・支援実践領域を中心に、法規・倫理領域、基礎心理学領域、発達・社会心理学領域などについて学んでいく。また、心理専門職の仕事と自身の適性についての理解を深め、心理専門職としてのキャリアイメージを明確にする。	
			心理専門職演習Ⅲ	○	心理専門職として業務にあたるうえで、エビデンスに基づく実践力の向上が必要となる。そのため、本講義では、科学的研究法の理解や海外の文献の読み方を学んでいく。具体的には、国内外の文献を読み、問題点を指摘したり、そこから考えられる研究計画を立案できるようにする。また、データに基づいた実証的・科学的な思考方法と研究倫理の具体的な方法を考えられるようになることを目指す。	
			心理専門職演習Ⅳ	○	心理専門職の仕事理解Ⅰ～Ⅲの内容を踏まえ、公認心理師や臨床心理士を目指すうえで必要となる心理学の専門知識を深めていく。また、大学での実習の振り返りや、専門職としてのマインドの基礎固めを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	発展 科目	粧いの心理学	粧いの心理学では、日常生活において欠かすことのできない「服を着る」という被服行動と、多くの女性が習慣的に行っている化粧行動について、心理学の視点から得られた知見を紹介する。装いの機能・効果の理解を通じて自己の装いを見直し、装いが他者に及ぼす影響を学び、装いという日常的な行為における心理的側面について考える。	
		子どもから見た世界	それぞれの発達段階、障がいや社会的境遇にある子どもが体験しているであろう世界を学習することにより、子どもに対して共感的な立場で接することができる視点を養う。胎児・乳幼児から小学生までの子どもの側からみた世界を理解して、それぞれの発達段階の特徴からその子どもが体験するであろうこと、考えるであろうことを推測したり、追体験できる資質を養成する。また、子ども虐待、貧困、ネグレクトに遭った子どもたちなど社会問題の現状をニュースを通じて理解する。	
		発達心理学	乳幼児期から老年期に至るまでの人の心身の発達について、対人関係をキーワードとして講義を行う。乳幼児期では母子関係を軸とし、対人関係の築き方について学びを深め、次に学童期では主に対人関係で困難を示しやすい、発達障害の児童への理解を深めていく。更に、高齢化により患者数が急増している認知症について、基礎的な知識と、必要とされる心理的ケアについて考える。	
		教育・学校心理学	教育・学校心理学では、学齢期の子どもの発達と教育に関する基礎理論、子どもの心理的問題について理解することに加えて、必要となるアセスメントの方法と心理的支援法を修得することを目的とする。①教育の現状と教育に関する制度、②教育分野における基本的理論、③教育現場において生じる問題及びその背景、④教育現場で必要なアセスメント、⑤教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について講義を行う。	
		自然環境と心理	自然環境の心身への影響について、気候療法と特にウォーキングのストレス軽減効果を中心に講義と実習を通して、基礎的な知識を習得する。さらに、地域の森林植物園などで健康増進のための森林ウォーキング・コースを立案し、そのリラクゼーション効果の検討を行う課題解決型の講義・実習とする。自然環境が心身に及ぼす影響について理解し、その効果測定・検討ができる測定データを収集すること、得られた測定データを加工・編集しプレゼンデータにまとめること、自然環境を活用する新たな健康プログラムを提案することができるようになることを目指す。	
		スポーツ心理学	本講義は体育・スポーツ活動における心理的側面から探求し、意欲や効果的な成果を獲得する為のスポーツ心理学的基礎知識を習得する事を目的とする。体育・スポーツ活動と心の問題（スポーツの生理・心理的效果、人間形成、パーソナリティと情動変化の影響など）、体育・スポーツ活動における運動意欲と動機づけ、スポーツコーチングの心理的問題（技能の習得と向上、練習方法）、カウンセリング、メンタルトレーニング、メンタルマネジメント、運動行動変容などについての理解ができるようになることを目的とする。 (オムニバス方式/全14回) (葦原摩耶子/7回) スポーツと心、体育教師及びスポーツ指導者の為のメンタルマネジメント、運動と心の健康増進、運動行動変容の理論と実際 (杉山真人/7回) スポーツにおける動機づけ、コーチングの心理、スポーツカウンセリングの基礎知識、メンタルトレーニング (葦原摩耶子・杉山真人/1回)（共同） 身体的・心理的・社会的側面からみた発育・発達	オムニバス方式 共同（一部）
		情報と統計	心理学に限らず、何かを主張したり、何かの主張を読んだりするときに、数値を使うことは客観的・論理的思考の大切なツールである。日常にある問題を解決したり読み取ったりするために、統計の基礎を正しく使えるようになる準備をする。講義では、Excelの基本操作をはじめ、尺度、度数分布とヒストグラム、代表値、散布図、相関、回帰直線、推測統計の基礎について学ぶ。「事実・数値・データで、物事を記述することの有用性を理解すること」、「心理統計学や心理学研究法で扱われる内容を理解するための基礎的な力を身につけること」を目標とする。	
		心理学統計法	実験や調査などで得られたデータを解釈するためには、主観を排除し、客観的な指標に基づいておこなわなければならない。その指標を用いるためには、得られたデータが持つ性質を理解し、また使用する指標の基本的な考え方を知る必要がある。心理学統計法では、①統計学の意義とその基本的性質を理解すること、②統計的データ解釈に関する基礎的な知識と分析手順を身に付ける。具体的には記述統計、統計的仮説検定、t検定、相関などについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(心理学部心理学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	発 展 科 目	多変量解析	心理学の実験や調査では、3つ以上のデータ間の関連や因果の構造を明らかにする統計手法（多変量解析）がよく用いられる。本講義では、多変量解析法について解説する。本講義では、重回帰分析や分散分析、因子分析などの分析方法について講義する。また、実際のデータを用いながら複数の分析手法を用いた一連の分析プロセスを学び、目的に応じて必要な分析手法を使い分ける力、得られた結果から適切に情報を読み取る力を身につけることを目指す。	
		心理学実験	心理学実験では、実験の実習を通して、心理学における主要な研究方法である実験と調査の理論と技術を身に付けることを目的とする。心理学が用いている研究方法を実際に体験して、理解すること、目的に対応した結論を論理的に導くこと、心理学実験のレポートが作成できる力を身に付けることを目指す。これまでの心理学の学びの確認と卒業論文や大学院進学で必要となる研究する力を養うことを目標とする。	
		表現と自己理解の心理学	芸術表現は、自己効力感の向上やカタルシスといった側面を持ち、心の健康を支えるセルフケアの一手段として、心理学分野において位置づけられてきた。本講義では、描画や造形などの芸術表現を通して、自己理解や感情の調整に気づくための心理学的アプローチについて学ぶ。また、芸術療法の基礎的な理論を踏まえた表現活動の体験を通して、表現が心理に及ぼす影響やその意味を理解し、セルフケアとして日常生活に活かすための視点を身につける。本講義を通して、学生が健全な心理的状态を維持するための基礎的な力を養うことを目指す。	
		こころと身体のつながり	この講義では、心身の相互作用に着目し、身体感覚を通じて心理面を理解・調整するソマティック心理学（身体心理学）を学ぶ。このアプローチは、身体の緊張や感情を認識し、呼吸や動作を通じて調整することで、心理的安定を促進していく。本講義では、ソマティック心理学の理論的背景をふまえ、マインドフルネスとソマティックワークを中心に学ぶ。これらを体系的に学習することで、認知・情動・身体感覚の統合過程を体験し、臨床応用についても理解を深める。さらに日常生活におけるセルフケアとして活用する方法を身につけることで、学生自身のメンタルヘルス向上を目指す。	
		音楽と心理学	音楽療法の、音楽のもつ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持・改善、生活の質の向上などに向けて、音楽を意図的・計画的に使用することとされる。本授業では、音楽療法の基礎理論、心理学的・神経科学的モデルを学び、臨床実践での応用へ理解を深める。さらに音楽を用いた自己調整やストレス低減を体験的に学習し、心身の健康を促進するためのセルフケアとして実践できる力を身につけることを目指す。	
		コミュニケーションの心理学	この講義では、自己と他者の双方を尊重する対等な関係に基づくコミュニケーションのあり方としてのアサーションについて学ぶ。非主張的・攻撃的な態度との違いを踏まえ、対人場面における自己表現や相互理解のあり方を捉える視点を身につける。また、ロールプレイングやグループディスカッションなどの教育的手法を通して、アサーションが対人関係におけるストレスや葛藤への向き合い方、感情調整や自己理解とどのように関わっているのかを整理し、セルフケアの観点から対人関係を捉える視点を養う。本授業を通して、学生が健全な対人関係を築くための基礎的な理解と態度を養うことを目指す。	
		自分を支える心理学	この講義では、困難や失敗、思うようにいかない経験に直面した時に、自分を過度に批判するのではなく、理解と配慮をもって向き合う心の在り方について学ぶ。このような自己への向き合い方は、セルフ・コンパッションと呼ばれ、心理学においては、苦しみや不十分さを感じる自己に対して、思いやりをもって関わる態度として捉えられている。本講義では、セルフ・コンパッションの基本的な考え方が手掛かりに、教育的配慮のもとで構成されたワークを取り入れながら、不安やストレスといった心理的課題への向き合い方について理解を深め、自分の内的体験を適切に捉え、健全な心理的状态を維持するための基礎的な理解と態度を身につけることを目指す。	
		動物と関わる人の心理学	動物と人が関わることによって身体的・心理的・社会的な効果を期待する活動を、日本ではアニマルセラピーと呼ぶ。海外では、治療を目的とする補助医療行為は動物介在療法、介護・福祉を目的とする活動は動物介在活動、動物を教材として教育を行う活動は動物介在教育と分類され、広く実践されている。本授業では、これらの動物を介在した諸活動に関する理論的基盤に加え、倫理および安全管理について体系的に学ぶ。また、医療・福祉・教育領域における実践事例を通じて、臨床応用への理解を深める。さらに、模擬実践を通じて、自身のストレスマネジメントやセルフケアに活かせる実践力を養うことを目指す。	
		海外心理学研修	海外心理学研修では、カナダ（トロント）において、教育現場や医療現場で特別に支援が必要な子ども達に対する心理的アプローチ（特別支援教育、心理アセスメント、カウンセリング等心理療法、教室における対応など）の実際を見聞することにより、教育・医療現場における心理学の役割について理解を深める。研修を通して、特別な支援が必要な子どもたちへの心理的支援について理解すること、発達障害について理解を深めること、多文化教育、インクルーシブ教育における心理的サポートについて学びを深めることを目標とする。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。